

する。

すなわち、河川の水質に係る環境保全水準は、「水質汚濁に係る環境基準」において水域類型ごとに定められている生物化学的酸素要求量の基準値をもって、また、湖沼及び海域の水質に係る環境保全水準は、同じく化学的酸素要求量の基準値をもってそれぞれ環境保全水準とする。

河川に係る環境保全水準

類 型	環境保全水準
A A	1 ppm 以下
A	2 "
B	3 "
C	5 "
D	8 "
E	10 "

湖沼に係る環境保全水準

類 型	環境保全水準
A A	1 ppm 以下
A	3 "
B	5 "

海域に係る環境保全水準

類 型	環境保全水準
A	2 ppm 以下
B	3 "
C	8 "

2. 環境容量の設定

水質に係る環境容量は、河川、湖沼、海域の各水域ごとに定めた環境保全水準を維持し得る許容限度量としての汚濁負荷量を設定することをもって環境容量とすることを検討したが、環境容量を設定するに足る資料及び科学的知見が不足していることなどから、環境保全水準をもって環境容量とする。

ただし、流域別下水道整備総合計画が策定されている河川については、定量的に管理することが望ましいところから、その指標として、同計画において設定されている環境基準点における低水流量と、低水流量時における環境基準の積として算定された「許容流出負荷量」をもって環境管理のための容量とする。